令和6年度　学習分析事業　課題改善シート　三原市立〇〇小学校

【別紙1】

資料３２

1　本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果偏差値平均						
	本年度結果偏差値平均						
算数	前年度結果偏差値平均						
	本年度結果偏差値平均						
理科	前年度結果偏差値平均						
	本年度結果偏差値平均						
全体	前年度結果偏差値平均						
	本年度結果偏差値平均						

②学習環境分析　Q-U　【1回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点) 全国(点)							

③全国学力・学習状況調査　正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果（対県比）		
本年度結果（対県比）		

④学習環境分析　Q-U　【2回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点) 全国(点)							

2　令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語科では，考えや感想を持って伝え合う(51.5%)，文章を整え感想や意見を伝え合う(40.7%)，漢字の書き，考えや感想を持って伝え合う(35.3%)，情報を選び構成を考えて話す(41.2%)に課題があった。 ●算数科では，かっこを用いた式・四則の性質(55.5%)，平面図形の性質，面積(56.2%)，分数(64.8%)に課題があった。 ●理科では，磁石の性質(48.2%)，乾電池の働き(51.9%)，物の溶け方と水溶液の重さ(55.5%)に課題があった。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科では「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題1ー(61.8)，「目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができる」問題2ー(88.2)，「目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」問題2ニ(66.2)に課題があった。情報を結び付けて考えることや要約など，「書くこと」についての課題が大きい。 ●算数科では「伴って変わる二つの数量の関係が，比例の関係であることを用いて，知りたい数量の大きさの求め方と答えや式を言葉を用いて記述する」問題1(3)(52.9)，「(2位数÷1位数)のひっ算について，図を基に各段階の商の意味を考えることができる」問題3(4)，「百分率で表された割合について理解している」問題4(1)(35.3)に課題があった。また，全国と比較して数値は上回ったものの図形の性質を利用した問題にも課題がある。
【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて) ●「ゆるみのみられる学級集団」が1学級，「親和的なまとまりのある学級集団」が7学級，「かたさのある学級集団」が5学級があった。 ●三次支援を必要とする児童が21人いる。	【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて) ● ● ●

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　(何を，どの程度達成するか)	達成のための具体的取組　(どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇問い・全員参加を意識した授業改善により授業力を向上させる。 〇児童が基礎的基本的な学力を習得できるようにする。(学期末テスト 1,2年：90点以上の児童90%以上，3～6年：80点以上の児童80%以上) 〇児童の学習意欲・期待感を向上させる。(児童アンケートによる肯定的評価80%以上)	①NRT・全国学テの問題を解いて，誤答分析を行い，課題の単元について教材研修会を行い，校内研究を実施する。 ②課題克服や基礎的な学力を身に付けるために，取組を実施する。 ・「桜山タイム」を全校で実施する。(国語・算数・理科) ・9月～学力分析の結果から類似問題を作成し，取り組み後，再度類似問題を解くことで定着度を確認する。 ・10月～「桜山タイム(じっくり)」の時間にNIEや読み取り，聞き取り問題に取り組み，感想文を書いたり伝え合ったりする活動を月1回取り組む。(1カ月の中で類似問題に取り組む週とNIEなどに取り組む週を設定し，全体で取り組んでいく) ・各学年の課題に応じた理科の家庭学習を取り入れる。 ・第1火曜日，第3水曜日の学力補充では，40%未満の児童に重点をおき指導する。	①7月～3月 【分析・研修：8月，校内研修：年間1人1回以上】 ②4月～ 【桜山タイム：週3回】【理科の家庭学習：通年(週末)】 ③4月～【各学期に1回以上】 ④4月～3月【週1回以上】 ⑤4月～【作成，見直し：学期に1回】	・教師用アンケートによる肯定的評価80%以上(各学期末実施) ・児童アンケートによる肯定的評価80%以上「学習を楽しむことができた」「学習を通して成長したと思う」(各学期末実施) ・QUにおける学習意欲得点が，28点以上の児童の割合80%以上(各学級) ・国語科(漢字・学期末の平均)，算数科(学期末)のテスト 80点以上の児童80%以上
【学級・学習集団づくり】 〇学級におけるルールを明確にし，学校生活の環境を整える。 〇児童一人ひとりの役割を明確にし，居場所を実感できるようにする。 〇自他の良さ・魅力を認め合えるようにする。	①担任等による児童面談を実施する。 ②係活動を明確化し，定期的に振り返る場を設定する。 ③児童における自治活動を積極的に取り入れていく。 ④グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニングを実施し，お互いを認め合う時間や関わり方を知る時間を設定する。	①いじめアンケートと同時期 ②7月，12月，3月 ③月1回の委員会活動 ④2カ月に1回各クラスで実施し，その後職員で児童の様子や効果について交流する機会を設ける。	・QUの1回目と2回目の結果比較(満足群の増加，不満足・要支援の減少) ・QUにおける三次支援の児童数の減少

R5年度

R6年度

3　令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ● ● ● (全国学力・学習状況調査をうけて) ● ● ●	【学級集団について】 (1回目のQ-Uをうけて) ● ● ● (2回目のQ-Uをうけて) ● ● ●

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

身に付けさせたい力(上記課題を踏まえたもの)	具体的取組(授業の中で継続して取り組めるもの)	検証指標
【学力向上ついて】 ・まとまった文章を書くこと ・長文の読み取り ・情報と情報との関連付け	①R80 ② ③	〇
【学級・学習集団づくりについて】 ・支持的風土の醸成 ・安心できる居場所づくり ・学習規律・学習環境の整備	① ② ③	〇

【別紙２】

令和６年度　学習分析事業　学力補充シート　三原市立〇〇小学校

【教科名：　算数　】

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
６年 取組内容	・Ｒ５の全国学力を本番と同様に実施（４月） ・Ｒ６NRTでの課題 アシストシートで学び直し（６～７月）				・Ｒ６全国で課題のあった問題 解き直し（９月～10月）						
５年 取組内容	・アシストシートで、前学年の内容を確認（４月） ・Ｒ６NRTでの課題 アシストシートで学び直し（６～７月）				・Ｒ６全国学力で課題があった基礎的・基本的な問題 （10～12月）				・Ｒ５全国の問題を分割して実施（１月～２月） ・Ｒ５全国を本番と同様に実施（３月）		
管理職				【両学年】進捗確認				【両学年】進捗確認			【両学年】進捗確認
教務主任	５・６年生担任と連携し，実施するアシストシートの準備（１学期用）			５・６年生担任と連携し，実施するアシストシートの準備（２学期用）							
研究主任			学年主任と連携し，１学期の取組の進捗及び生徒の状況について確認する。				学年主任と連携し，２学期の取組の進捗及び生徒の状況について確認する。			学年主任と連携し，３学期の取組の進捗及び生徒の状況について確認する。	
学年主任			【両学年】学年会で進捗状況を確認し、スケジュールの見直しを図る。				【両学年】学年会で進捗状況を確認し、スケジュールの見直しを図る。			【両学年】学年会で進捗状況を確認し、スケジュールの見直しを図る。	
担任	【６年】Ｒ５の全国学力を本番と同様に実施 【５年】アシストシートで前学年の内容を確認		・Ｒ６NRTでの課題 アシストシートで学び直し		【６年】Ｒ６全国で課題のあった問題 解き直し	【５年】Ｒ６全国学力で課題があった基礎的・基本的な問題			【５年】R6全国学力の問題を分割して実施		【５年】Ｒ５全国を本番と同様に実施
専科	【５・６年】C層の児童への個別指導				【５・６年】C層の児童への個別指導				【５・６年】C層の児童への個別指導		